特定非営利活動法人

こどもNPO

Annual Report 2018

理事長あいさつ

おとなが子どもにとって良かれと思ってやっていることが、本当に子どものためになっているだろうか…。

特定非営利活動法人こどもＮＰＯは、子どもの社会参画を推進し、子どもたちと共に持続可能な社会をつくるために活動しています。こどもＮＰＯが発足してから１９年、子どもたちの状況はどう変わってきたか。子ども（小中高性）の自殺３２０人（Ｈ２８年）、７人に１人が貧困（Ｈ２８年国民生活基準調査）虐待相談件数１５万件以上（Ｈ30 年度）小中学生の不登校１３万人以上（Ｈ３０年文部科学省公表）と子どもの環境はますます厳しくなっていると感じます。このような状況に対し、児童福祉法が改正され（Ｈ２８年）「児童の権利に関する条約の精神にのっとり」という文言が明記されました。子どもの権利条約を日本が批准して２５年たってやっとという感はありますが…。教育の場では、学校外での多様な学びの場を提供することを目的とした法律「教育機会確保法」が２０１７年２月に施行されました。また、名古屋市では子どもの権利擁護第三者機関の設置に向けて検討され、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの声をまっすぐに受け取る子どもアドボケートという手法も広がっています。こどもＮＰＯは、子どもの参画をミッションとし、子どもの最善の利益のために活動してきました。しかし、まだまだ子どもの参画は進んでいないのが現状です。今年、こどもＮＰＯが行った調査からは

「子どもはおとなに話をしたくないのではなく、声を受け止めてもらいたい」と思っている」ことが分かりました。子どもの声をしっかり聴き、社会にどうつないでいくのかがこどもＮＰＯの使命でもあります。

２０１９年は子どもの権利条約が採択されて３０周年、日本が批准して２５周年の年です。社会、特に教育の現場に「子どもの権利条約」が浸透し、子どもが権利の主体者として尊重され、明るい未来をともに築いていけるようにこれからも子どもの参画を推進していきます。

特定非営利活動法人こどもＮＰＯ理事長　小島千春

「持続可能な社会づくりのための教育」へ

「もうひとつの学校　こどもとつくる　くらし☆あそび☆まなびの場　Roots」から

2015 年度よりこどもＮＰＯでは、不登校の子どもたちの居場所＆学び場として「Roots」事業を行ってきました。その流れと並走して、こどもＮＰＯと NIED・国際理解教育センターが共同して立ち上げたプロジェクト「理想の学校を創る会」が、2018 年度に新法人「NPO 法人あいち惟の森」を立ち上げ、Roots は 2018 年 10 月に「オルタナティブ・スクールあいち惟の森」へ事業移管しました。

子どもを取り巻く課題は家庭・発達・地域・学校・社会の問題など、年々多様化しています。これらの課題の解決には、それぞれ専門に取り組む事業が必要であり、時として団体の枠を越えて協働で取り組むこともあります。
今回のような他団体と共同で新しく団体を立ち上げる形は、こどもＮＰＯとしては初でありますが、子どもたちの課題を解決していくために、様々な個性を持つ団体があることで、多様な社会課題に対応していくことができます。

こうした新たな試みを行っていくことが、社会課題に対し自由な発想で解決策を模索できるＮＰＯの長所であり、こどもＮＰＯが目指す持続可能な社会に向けた活動につながっていきます。

こどもＮＰＯが目指す社会

こども × おとな ＝ 未来

こどもＮＰＯのミッションには、子どもの生きる権利・育つ権利・守られる権利・参加する権利を基盤とし、子どもが社会に参画する機会や場をつくり、子どもとおとなが共に持続可能な社会を形成することとしています。

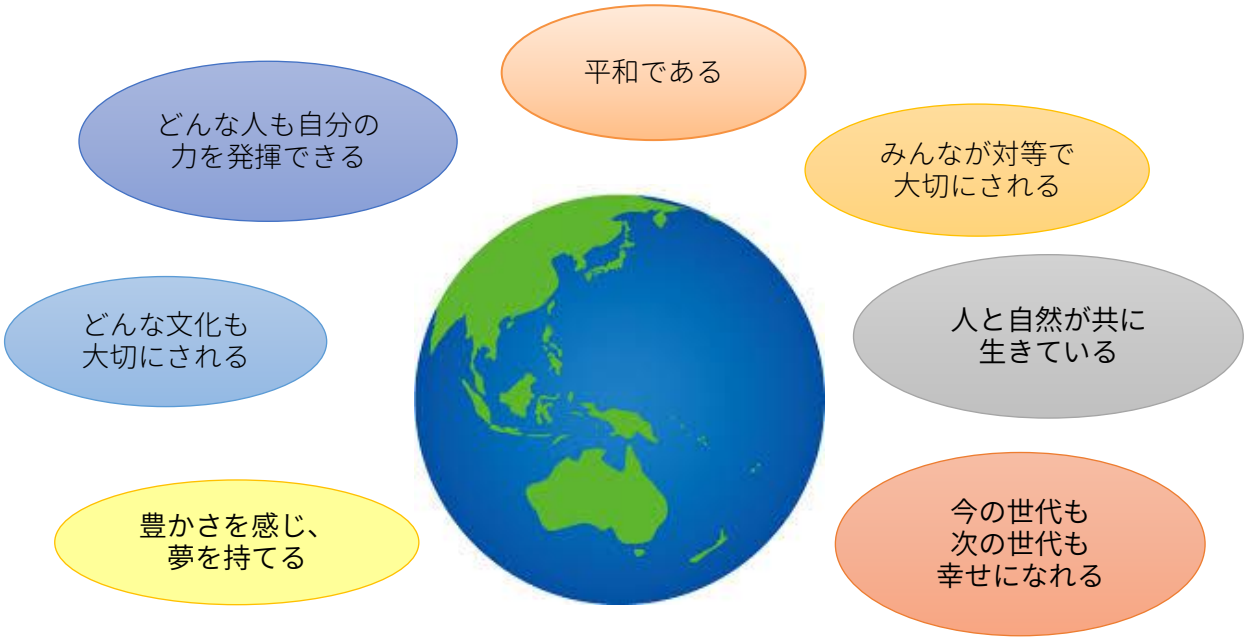
これは子どももおとなと同じ１人の権利を持った対等な存在（人）であり、子どもの意見が１人の意見として社会の中にも反映されることで、誰の意見も尊重される社会が形成されていきます。

それを目指す背景としては、「子どもは子どもだから（できない、未熟である、おとなに従う存在、おとなが導く存在）」としてしまう今の社会の姿があります。
しかし、その結果が子どもの自己肯定感を下げ、海外の若者の回答と比較すると、もっとも低い実態にあったほか、2013 年度の調査からもさらに低下していました。
（2019 年度「子ども・若者白書」より）

子どもが安心して自分の意見を出せるようになるには、私たちおとなが子どもの意見を真摯に聴くことから始まります。まずは目の前の子どもに耳をかたむけるところから。私たちは、子どもの声が届く社会を目指していきます。

持続可能な社会を実現するために必要な子どもの社会参画

こどもＮＰＯがつくりたい持続可能な社会とは・・・



子どもとおとなはパートナー。こんな社会をつくるために、子どもと一緒に活動します。

2018年度事業の特色

♤ 子どもの社会参画の取り組み

〇社会参画事業

・子どもの権利条約フォーラムinとちぎ　　・なごや環境大学共育講座等で社会に発信

学習支援事業や居場所づくり事業に参加する中高生を中心に社会体験・社会参画の事業を行った。自分の住んでいる地域のみならず、他の地域のイベントの協力や、他団体が主催する会議に参加し、日ごろから抱えている思いを発信する機会をつくった。

〇大高南学区での地域づくりの参画

地域のお祭りに参加し、水風船や飲み物売り場などの出店を子どもたちと担当した。地域の場に参画したことで、地域の連絡協議会や区役所とも連携が生まれ、区主催の会議にも参加するきっかけができた。

〇児童館での社会参画

・緑児童館：中高生の居場所づくり事業「学びタイム」

中高生が知りたい・発信したい内容を話し合う「学びタイム」の中で、子どもの権利擁護機関についてのヒアリングから、学校やいじめのことなど子どもたちの本音が吹き出てきた。その後しばらくいじめをテーマに議論が進み、子ども主体での発展が続いた。

・中川児童館：地域に向けたコミュニティづくりと発信

地元の地域資源・地域団体と協力して、アート企画やコミュニティガーデンづくり、防災のイベント企画など、子どもたちとの企画に加え、地域の中でも参画の場を広げている。

◇ 子どもの声を真ん中に置いた「地域づくり」と「人づくり」

〇大高南学区での活動（子ども食堂、居場所など）

大高南学区で、子どもを真ん中に置いた地域モデルづくりとして、プレーパーク・子ども食堂・学習支援・居場所づくりを一体推進する事業を展開した。

〇子どもの権利・こどもＮＰＯが大切にしていることについての普及

・「おとなのしゃべりば」の実施

こどもＮＰＯスタッフがどのような活動をしているのか、どんな思いを抱きながら活動に携わっているのか参加者と語り合う場を持つことで、こどもＮＰＯの活動や理念について発信を行った。

・中川区の子どもに関わる主要な人材への啓発

中川児童館が牽引して、中川区の子どもに関わる主要な人材（小学校校長、子ども会連合会、主任児童委員、なごや子ども応援委員会、子育て支援団体、中川福祉会館など）に向けて「子どもの権利」について学ぶ場を設け、一緒に考え、互いの意見を伝えあった。

〇人材育成〈学習サポーター、スタッフ研修〉

2018 年度は約 90 名の学習サポーターとともに学習支援事業を実施した。のちに子どもと携わる職に就く学習サポーターもおり、現場だけでなく研修を通し子どもの権利について伝え、子どもの権利が子どもたちの環境の中に普及されていくことにもつなげた。

♡ 子どもの声を真ん中に置いた提言　〈子どもへのヒアリング＆提言〉

名古屋市が子どもの権利擁護を行う第三者機関の設置検討にあたり、子ども自身から意見を聴取する事業の受託を受け、こどもＮＰＯの多様な現場で関わっている子どもたちの声を伝えるともに、ヒアリングを行ったスタッフの視点も交えて、行政へ報告と提言を行った。
また、子どもの権利擁護機関の設置にあたり、名古屋市内の３つの市民団体と共催で子どもの権利擁護についての学習会を開催し、４団体合同で市民案を名古屋市に提出した。

♧ 子育ち・子育て支援事業の拡充

〇名古屋市子ども・子育て支援センター

生まれながらにして権利の主体である乳幼児の声を聴き、その立場に立ち、親の子育てに寄り添いながら、乳幼児のアドボケイトとして親を含めた社会へ発信をした。コンソーシアム（共同事業体）団体とともに他の自治体で行われている先駆的な取り組みを学び、行政機関への提案・発信を行った。

〇地域子育て支援拠点

2018 年 10 月から、名古屋市の委託事業として地域子育て支援拠点森の実（緑区徳重）を新たに開設した。

こどもＮＰＯの子育て支援事業に参加していた母親たちが運営スタッフとなり、当事者の思いを受け止め、寄り添うことで、やがて現当事者が担い手となるような子育てや、子育て支援の循環が各地で起こることを目指している。

〇緑児童館

外遊びを通して、乳幼児期から「自発性」「主体性」を保障できる環境づくりを実施し。他の機関（子育て支援拠点、子育てサークルなど）と連携し、外遊びの環境づくりのノウハウの伝授、スタッフ及び参加者への座学などをパッケージした「外遊び応援プログラム」を展開した。

〇中川児童館

乳幼児親子が主体的に児童館運営に関わるような働きかけを行った。乳幼児親子から意見を募ったり、乳幼児講座の講師として地域活動のきっかけをつくった。他にも児童館が子育て支援ネットワーク連絡会や中川区福祉活動計画委員会に向けて提言を行い、乳幼児親子の現状やニーズを伝え、次期の施策づくりに関わっている。

☆ 教育機関・企業との連携による取り組み

〇名古屋市立大学

こどもＮＰＯのミッションと通じる SDGｓをテーマに連続講座を行い、多くの大学生が受講した。この講座と連動し、名古屋市の教育機関が集うシンポジウムに参加。学生が自らの活動を報告しあい、市政への提言につなげる取り組みに、こどもＮＰＯで活動する子どもたちが直接声をあげた。

〇若宮商業高校

ハイティーンの子どもに対する社会の支援というテーマで講師依頼を受け、こどもＮＰＯの実績を紹介して、子どもたちにとってどういった環境が必要であるのか伝えた。

〇名古屋商業高校

愛知県県民文化部社会活動推進課主催の「寄付のゼミナール」事業に参加。高校の授業の中で市民活動について学び、活動のプレゼンをした団体に高校生が投票して寄付金額が決まるという事業であり、こどもＮＰＯの活動や理念を高校生たちに伝える機会となった。

〇住友理工協働事業

住友理工（株）と池田町と協働で、ひとり親の家庭に向けた保養と体験の事業を開催。コーディネート事業者として、CSR の一環を担った。

もうひとつのがっこう　子どもとつくる「くらし☆あそび☆まなびの場　Roots」

（自主事業）

「こどものまち☆独楽のおっちゃんにインタビュー」

＜目的＞

子どもの社会参画を推進し、持続可能な社会づくりのために必要な価値観とスキルを育む学校をつくる活動です。

＜取り組み内容＞

こどもＮＰＯは「子どもの社会参画」を手段にして、持続可能な社会づくりを実現する団体です。子どもたちの放課後を豊かにする活動と併せて、学校教育の中で市民性教育、人権教育、ESDの普及・実践に取り組むことで、子どもが市民の一人であることを実感し、持続可能な社会づくりの担い手として望む社会をおとなと共につくっていくこと目指します。Rootsは、そのために必要な価値観とスキルを育む教育実践の場です。2014年から取り組んでいるRootsの実践活動と、同年にスタートした研究活動「理想の学校を創る会（NIED・国際理解教育センターとこどもＮＰＯの有志による会）」の活動が2019年には一体的な活動となり、Rootsは運営母体をこどもＮＰＯから両団体が創設した新法人「NPO法人あいち惟の森」に事業移管されます。新たに「オルタナティブ・スクールあいち惟の森小学部・中学部」として教育実践活動を継続していきます。今年度は事業移管に伴う、学校運営の基盤づくりの年となります。提供されるカリキュラムの内「テーマ・スキル学習（NIEDがカリキュラム提供）」と「プロジェクト（こどもＮＰＯがカリキュラム提供）」は学校の2大柱となっており、Rootsを事業移管した後の2019年度以降、「プロジェクト」のカリキュラムづくり、社会参画のモデルづくり、ファシリテーターの人材育成など協働事業としての取組みを継続していきます。

夏休み Roots「Roots 横丁」

＜事業を終えて＞

Roots は持続可能な社会づくりのための教育活動です。「今ある社会で幸せに生きていくためのサポート」が福祉であるならば、教育は「幸せに生きる社会、そして未来を創ること」だと考えます。今ある社会に合う人を育てるのではなく、望む社会をともに創っていく仲間を増やしていきたいと切に願っています。

＜成果・実績＞

◆開校日数：97 日間

◆延べ参加人数：627 名

（2018 年 4 月～9 月）

「プロジェクト」運動が苦手な子でも楽しめる運動会

♤ ◇ ☆

子どもの最善の利益と子どもの社会参画を一体推進する地域の場づくり事業（助成事業）

＜目的＞

公営住宅に暮らす子どもたちを中心として、子どもが通える範囲に無料で行くことができる場と機会を多く作ることを目的としました。

子どもの権利が保障されることと、子どもの声を子どもとおとながともに社会に届ける、という一体推進ができる地域モデルづくりを進めるための取り組みです。

発表内容の作成風景（社会参画）

＜取り組み内容＞

・子どもとつくる子ども食堂「さばんなかふぇ」
月１回開催

・子どもの居場所づくり「サバンナきち」
（名古屋市事業の空白期間４～７月実施）

・学費工面や社会経験を積むための「社会体験」

・子どもの声をともに社会へ発信する「社会参画」

・子どもの権利を学ぶ研修や広報イベント計４回

お祭りボランティア、地域清掃、子どもとともに行う活動報告、子どもの権利条約フォーラム等、様々な活動に取り組みました。

中・高・大学生で共同発表（社会参画）

子どもとつくる子ども食堂

＜成果・実績＞

参加者合計　728 名

表彰：愛知学長懇話会サスティナビリティ・リレーシンポジウムにて「平和賞」受賞

＜事業を終えて＞

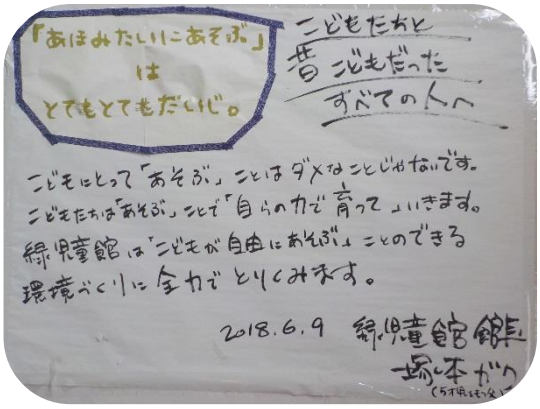
ひとつの地域を拠点としたことで、様々な事業への横断的な参加が見られるようになりました。そのため社会参画事業への接続も多くなり、子どもたちとともに多くの体験ができました。

その分、関係機関との調整、コーディネートに加えて、初の体験となる子どもたちには丁寧なフォローが必要でした。電車の乗り方、飲食店の入り方等、それらひとつとっても貴重な経験であり、子どもの権利保障と社会参画、そして自立に向けたライフキャリアの想像や形成にも資する活動であったとも思います。

翌年度は別の助成金を使用し事業を運営していきます。場を無くさないことが求められるため、寄付や収益事業等の独自財源確保の動きが求められます。

緑児童館（指定管理）

＜目的＞
おとなからの指示や指導ありきではなく、なるべく子どもだけの世界を保障し、子どもたちが「真っ当な子ども時代」を過ごすことのできるような環境を整えることに尽力しています。



＜取り組み内容＞
- 子どもの遊ぶ時間、自由に過ごす事の重要性が軽んじられている昨今、「子どもには自ら育つ力がある」ことを事業や広報を通じて発信しました。
- 日常の「遊ぶ」を大事にしながらも、社会を知る、社会に目を向ける、問題を自分事として捉え、考えることのきっかけづくりのプログラムを行いました。
  例：GGT（グローカル・グリーン・タイム）、学びタイム、しゃべり場、子ども会議など
- 乳幼児を持つ親が主体的に関わる事のできるよう「わづくり隊」という形で無理なく児童館のサポートができるように働きかけました。そこから派生し「絵本棚 PJ」「講座の企画」など母親たちの「やってみたい」を実現していきました。

わづくり隊の母親の手づくりポップ

＜事業を終えて＞
子ども会議などで、子どもの本音を引き出すことはスタッフが完全に主導しては引き出せないが、かといって何もしなくて上手くいくわけでもなく、きっかけづくりや少し手助けをすることが必要で、その辺りのバランスを取るのが難しく、力量が問われると感じました。

＜成果・実績＞
- 参加人数のべ 39,705 人
- スタッフ（週５勤務）より来館しているのでは？と思われる子どもが何人もいました。

学びタイム　「弓道を知る」

♤ ◇ ♧

中川児童館（指定管理）

＜目的＞2018 年度は「成長」をテーマに事業を展開しました。前年度のテーマ「連携」を活かし、子どもの社会参画の場が拡充しました。また、地元地縁組織・団体と協働事業を通した関係性の中で、子どもたち、地元のみなさんと一緒に「子どもの権利」について考える機会を持ちました。

小中高けってい委員会（定例子ども会議）

＜取り組み内容＞【新規事業から】

子どもの社会参画の場づくりや、利用者の意見を反映した館運営を行いました。

- 【通年】小中高けってい委員会（定例子ども会議）
- 【通年】畑から見えるいのちのつながりプロジェクト〈連携：NPO 法人れんこん村のわくわくネットワーク、児童健全育成推進財団、日本 NPO センター〉
- 【８月】子どもとつくる地域のみんな図書館〈連携：名古屋市教育委員会〉
- 【９月】防災 PJ「シミュレーションキャンプ」
  「東北からのメッセージ（講演会・カフェ）」〈連携・協働：八幡学区 PTA、石巻こどもセンター〉
- 【12 月】一日まるごと子ども企画「１day 児童館」

畑から見えるいのちのつながりプロジェクト

多様な持ち込み主催企画
（例：パパ会の親父とつくろう）

＜事業を終えて＞

多様な連携が広がりによって、多様な発想の企画や持ち込み企画・派生企画が増えてきました。それを支えるには職員のみでは厳しいため、地元に根ざしたみなさんの主体的参加や協力は必須になってきています。現在、中川区子育て支援ネットワーク連絡会や中川区福祉活動計画委員会にも協力を仰ぎ、ボランティアバンクの一元化やボランティア養成のしくみ構築にも挑んでいます。こうして中川区一丸となった関係性・環境を育むことで、子どもたちの中川区での社会参画の土壌が豊かに育ってきています。

＜成果・実績＞

33,292 名（館内利用 29,068 名、移動児童館等館外事業 4,224 名　その他行事参加　等）

- 中川区の子ども育成の中核となる児童館づくり
- 移動児童館などのサテライト事業で区民全体が利用しやすい児童館へ

児童館で防災シミュレーションキャンプ
〈協働：八幡学区 PTA〉

♧ 名古屋市子ども・子育て支援センター（758 キッズステーション）（委託事業）

＜目的＞

少子化や地域社会とのつながりの希薄化から、子育て家庭の孤立化が進行する中、誰もが安心して子育てができ、子どもが安心して健やかに成長できるよう、地域子育て支援拠点の中核施設として、孤立を防ぎ、孤立した親子を支え、多様な社会資源とつながりながら課題の解決を図ります。

＜取り組み内容＞

- キッズパーク運営（開館日数：342 日）
  子育て親子の交流の場として、安心して過ごせる場の提供と子育て相談、子育て情報の提供などを行いながら、子育ての不安感や孤立感の軽減に向けた運営を行いました。
- 子育て支援につながる講座の開催
- 都会における外遊び「そとへいこう！」の年間を通じた開催
- 名古屋市全域の地域子育て支援拠点のパネル作成を通じた交流会の開催
- 大学、企業など多様な社会資源との連携

＜事業を終えて＞

キッズパーク内での声かけを通じた親同士の交流促進だけでなく、講座開催を通じて親同士がつながり、グループ化してサークル登録するなど、キッズステーションをきっかけに、子育て当事者の安心に繋がるキッカケを提供する事が出来ました。また、都会における外遊びの実践を通じて、こどもＮＰＯが大切にしている想いを感じてもらう機会を持つことが出来ました。

＜成果・実績＞

- キッズパーク利用者：40,000 名
- 講座受講者：4,641 名（託児数　898 名）
- 相談件数：4,019 件
- イベント参加者：6,465 名
- すくすくサポーター派遣数：1,108 名

♧ ◇

子どもが育つ地域のつながりづくり事業（委託事業）

＜目的＞

「地域における子どもの遊び場」「子育て家庭や住民の交流の場」「悩みや困難を抱えた子どもの居場所」を目指し、プレーパークの準備・開催を通じて子育てのしやすい地域づくり、子どもたちが豊かに育つ地域づくりを目指します。

＜取り組み内容＞

- 子どもが自由に遊び過ごすことができる環境が乏しい社会的状況であるため、地域に子どもが安心して自分を表現したり、やってみたいことをやってみたりすることができる場づくりを行いました。また、参加者向けに活動趣旨を伝えるための講座を実施しました。
- 多様な主体（住民、地域団体、ボランティア、関係機関など）が協働して運営し、また、参加者も年齢や居住地を問わず交流することができるという特徴から、多世代交流や保護者同士の情報交換などができる機会となりました。
- 家庭や学校で悩みや困難、生きづらさを抱えている子どもが安心して過ごすことができる居場所となるよう心がけました。遊びの延長で、軽食を作って皆で食べたり、ケースによっては他の関係事業や専門機関と連携、ネットワークを構築したりすることができました。

＜事業を終えて＞

子どもの活動を見守り、ときに刺激しながら、遊びを通じて様々な体験をしている場面を見ることができました。活動を継続することで、子どもたちの変化、成長を実感したり、ゆったりと過ごすなかで、ふと家族や友人関係の悩みを口にする場面があったり。「場」のあり方について試行錯誤しました。

＜成果・実績＞

- のべ参加人数 1,537 人
  （子ども：1,134 人　おとな：403 人）
- 2 か所の定期開催（月 1 回）に加え、学区やボランティアの協力を得ながら新規立ち上げのための試行開催（4回）を行いました。

＜プレーパーク開催地域＞

- なるこプレーパーク（鳴子学区）
- サバンナプレーパーク（大高南学区）
- みずひろプレーパーク（大清水学区）

☆

～シングルのご家庭に贈る～安曇野・住友理工の森ふれあいの旅（委託事業）

＜目的＞

ひとり親世帯の親子を対象とした、自然環境の中での1泊2日におよぶ自然体験と交流の場づくり。
子どもへは、安曇野地域の住民および大学生との触れ合いによる豊かな主体的体験型の時間共有。親へは、同じような立場の親同士のつながりづくりとストレス解消・リフレッシュを目的としながら、子どもの成長の認識と他者との相互理解の一助としています。

＜取り組み内容＞

●2018 年４月　打ち合わせ
●2018 年５月　チラシ作り／参加者募集（4 家族）
●2018 年７月　応募者集約／調整
●2018 年８月 25 日（土）～8 月 26 日（日）当日
バスレク・鱒つかみ体験・かかし村見学・受け入れ式・森でのプログラム（スラックライン・ブランコ・ハンモック体験及び竹細工）・バーベキュー・すいかわり・花火・宿でのレク・野菜収穫・てるてる坊主アート展見学・昼食づくり（流しそうめん）
○自然環境のなかで、子どもとおとなが初めて会った仲間たちとともに、やってみたい！を発信し、チャレンジしながら、失敗や成功に捉われない認め合う場づくりを行いました。

＜事業を終えて＞

住友理工（株）さんが取り組まれている、地方創生の一環森林保全事業が、この事業の発端となっています。圧倒的な大自然の環境へひとり親のご家庭をお招きし、多様な人たちとの関わりから、子どもも親も、地域の方を含めたボランティアも、運営者も、自らを拓くきっかけとなればいい、そんな思いで３年間続けています。１泊２日という短い時間ですが、皆と寝食をともにする中で、大いにしゃべり合い、遊びきる姿は誰もが持つ逞しさや優しさが表れています。

＜成果・実績＞４家族１０名　ボラ 12 名

・家族間のみならず長野県在住の地域の人、大学生スタッフなど全関係者が、短い時間の中でも触れ合い、協力し合いながら、森づくりや食事づくりに挑戦したり、入浴の時間や遊びの時間を共有することで、自然に自分や仲間とのやってみたい！という意欲につながりました。
・それぞれの親が、参加の子ども全員を見守る中で、我が子の成長を感じ取り、また子どものみならず親自身が他の親との交流を深め語り合うことで、自身の楽しみに対しても肯定する機会となったようです。

名古屋市地域子育て支援拠点　森の実（委託事業）

地域で育てる・育ち合える関係をつくる

森の実は子どもの権利条約を基本構想として子どもの声を代弁し、地域の中で子どもの自然な成長を見守りながら「子育て」が「孤育て」とならないように、親同士の繋がりを深める場として 2018 年 10 月に新規オープンしました。利用者同士交流する中で子育てのヒントや知恵を身につけ、日々の子育てに活かしています。

＜取り組み内容＞

〇子育て親子の交流の促進

〇子育てに関する相談援助

〇定期プログラムの実施（2018 年度）

・おはなし会（絵本の読み聞かせ）

・赤ちゃんタイム（0 歳親子の交流促進と情報のシェア会）

・のびのび体操（親子のふれあい遊び）

・そとであそぼう（戸外遊び）

〇各種講座の開催

・わらべうた、おんぶと抱っこ、離乳食、家庭防災など

〇みどり赤ちゃんまつり 0.1.2 出展（2018/11/3）

〇緑区子育て支援ネットワークへの参加（2019/3～）

＜事業を終えて＞

各学区で行っている月１回のサロンでは物足りないと感じていた利用者がとても多く、この地域での開設がとても望まれていたことが日々の運営の中でもよく感じられました。また各学区の民生委員（児童委員）や区政協力委員長との連携や緑児童館のサポートの元、近隣の公園での外遊びプログラムの開催が叶いました。今後も引き続き子どもたちの遊びを保障しながら利用者に寄り添っていきたいと思います。

＜成果・実績＞

登録者数 324 組　総利用者数 3,199 名　１日平均利用 12.6 組（市平均 9.6 組）

◇

名古屋市中学生の学習継続支援事業Ａ型・Ｂ型（委託事業）

＜目的＞

生活に困難を抱えた家庭の中学生を対象に、学習の場・居場所づくりなどを行います。これによって進学意欲の醸成や自立促進をします。子どもの権利を保障する場をつくり、子どもの本来持つ育つ力を発揮する機会をつくります。

学習会の様子　Ａ型

＜取り組み内容＞

・子どもの抱える貧困等の生きづらさに個別に向き合い、学習をアプローチとして対話し、学力向上だけでなく将来の生き方などを子どもとともに考えていきます。

・名古屋市緑区内で学習支援を実施する団体に声をかけ、学び合いの機会をつくります。

・子どもと関わる「学習サポーター」の学びの場（ミーティング・研修）を月に１度開催し、子どもたちの理解者を社会に増やす取り組みをしました。

子どもたちとのお楽しみ会

学習会の様子Ｂ

学習サポーターミーティング

＜事業を終えて＞

一人ひとりのつまずき方は、生活も勉強も当然それぞれです。子どもにとって大きいことも小さいことも相談できる場が何年も続いていることは成果です。しかし、学習支援の場以外に相談できる場や機会はないため、社会に丁寧に子どもと関わる人や場の必要性を強く感じます。

学習サポーター（特に大学生）が、次の学年に思いを引き継ごうと自主的に、引継ぎ会が実施されるなどしました。

＜成果・実績＞

Ａ型：全 192 回　合計 1,013 名参加

Ｂ型：全 156 回　合計 1,041 名参加

サポーター研修　12 回

事業者交流会　２回

緑区受託事業者交流会

名古屋市高校生の学習継続支援事業Ａ型・Ｂ型（委託事業）
名古屋市高校生の学習支援事業における
名古屋市家庭訪問型相談支援モデル事業との連携強化事業（委託事業）

＜目的＞
高校に進学した学習支援卒業者を対象に、中退防止の相談支援と自学自習の場を提供します。相談支援モデル事業との連携強化をします。卒業生に対して電話等で現状をヒアリングします。高校生に対して交流会を実施します。

交流会の様子①

＜取り組み内容＞
・高校に進学したからと言って、生活の困難はなくなりません。義務教育や地域の支援から離れ理解者もおらず、逆に困難が増大している様子もあります。いつでも帰って来られる場所としてあり続ける必要がありました。
・学習だけでなく、学費・進学・就職・アルバイト・交友関係や交際・身体の悩み・SNS トラブルなど、中学生時よりリスクが高まることも多いため、常に気を配る必要性がありました。

交流会の様子②

＜事業を終えて＞
高校生への事業開始から３年が経ち、進学や就職をした子どもがいましたが、そうした知識も持ち合わせる必要がありました。高校生の抱える悩みは広く深いにも関わらず、社会には支援の輪が広がっていないのが実情で、学習支援の場が唯一の頼れる場になってしまっています。
高校生へ対応できる学習サポーターも大学生の卒業等で少なくなっており、関係がある担当スタッフが対応せざるをえないケースも多かったです。
高校生からは、中学生の頃には聞かれなかった学習支援の場の大切さや、私たちが丁寧に関わるスタンスの重要さなどを言葉にして表現してくれ、活動の意義がしっかりと伝わっていることが感じられました。

学習の様子

＜成果・実績＞
開催回数　348 回
参加者合計　425 名

◇

知立市生活困窮者子どもの学習支援事業（委託事業）

＜目的＞

- 中学生が、信頼できる大学生、おとなたちと、勉強ができる時間をつくります。
- 子どもにとって安心ができる居場所、自分らしくいられる場所をつくります。
- 学習や交流を通し、日常生活習慣の形成と自分の力を発揮する体験の機会をつくります。

＜取り組み内容＞

- 知立市の中学１～３年生対象　定員８名
- 通年実施　週１回程度　全４３回
（水曜日、自習日や交流会あり）
- 学習サポーターミーティング５回
- 学校訪問を２回実施

学習風景

学習サポーターミーティング
「子どもの権利条約を学ぶ」

交流会

＜成果・実績＞

のべ参加人数　204 名

＜事業を終えて＞

学習会では対話を大切に、子どもたちにとって安心して過ごせる場づくりに努めました。保護者に充分に頼ることができない家庭環境の中、子どもたちが抱える課題が困り事に発展しないよう行政や学校とも連携して事業を進めてきました。

交流会では、子どもたちが企画案を考え、小さな機会ではあるものの、子どもたちが考えたプランを自主的な参加により実現する体験の機会になっていきました。

今年度は５名が卒業を迎えました。今後、困難が生じた時に、子どもたちはどのように乗り越えることができるのか。気軽に相談ができる身近な居場所やハイティーンの相談機関が求められます。

◇

名古屋市ひとり親家庭の子どもの居場所づくりモデル事業（委託事業）
通称「サバンナきち」

＜目的＞

ひとり親家庭の兄弟姉妹を中心として、家庭と学校以外に地域で大人に見守られる場所、サードプレイスをつくり、生活を共にすることによって自立の意欲を高め、貧困の連鎖を断ち切ることが目的です。

今日はたこやき

＜取り組み内容＞

日頃行き場がなく、家庭に居づらいもしくは家庭に誰もいない、食事が十分に準備されていないなどの状況の子どもがいる地域へ出て、特に貧困状態のコア層と接することとなりました。

・食事（夕食）の提供　・学習の場の提供
・遊び場の提供　　・相談の場の提供
・サバンナプレーパークやさばんなかふぇ、学習支援との連動をさせて、子どもたちが横断して参加できるようにしました。
・居場所づくりサバンナきちを基盤として、社会参画事業等に出かけることができました。

ゆっくり過ごします

自分の好きなものをつくる

＜成果・実績＞

開催回数　66 回
登録　19 名
参加者合計　296 名

＜事業を終えて＞

名古屋市事業の開始時期や事業概要が変更されたこともあり、昨年度より参加者は少な目だった。小学生から高校生までが同じ場で過ごすこともあり、一人ひとりの満足いく場づくりは果たしづらかった部分もありました。

対応する支援員（学習サポーター）にとっても、学習以外の関わりが難しい点等、子どもとの関わりの中で悩むこともありました。居場所だからできる関わりや、見えてくる生活スタイルや悩みなど、様々な知見が必要です。

子どもたちとの信頼関係は厚く、社会参画等子どもたちにとって新たな取り組みへ参加することができました。困難を抱える子どもたちが自らの意思で参加し、声をあげられる場所があり、人との信頼関係を少人数の中で築く経験ができる、という貴重な場になっていました。

大学連携事業　共育講座＆シンポジウム（助成事業）

＜目的＞こどもＮＰＯのミッションである持続可能な社会づくりは、社会を構成する子ども・おとな一人ひとりがその課題を自分事として捉えることが大切です。子ども・ユース・おとなが対等に関わりあい、議論し、学びあい、子どもたち自身が社会に発信することで、子どもの社会参画へとつながりました。

サスティナビリティ・リレーシンポジウム

＜取り組み内容＞

「こども×おとな＝未来　未来をつくるパートナーシップ～身近なSDGsを学ぼう！～」

昨今、SDGｓがビジネスセクターにおいて指標として導入されてから成果指標として示されることが多くなっていますが、本事業では、定量評価では計り知れない地域牽引型の地域づくりについて、子ども・ユース・おとなが対等に関わりあい、議論し、学びあいました。

■第1回　「ESD」&ワークショップ

話題提供：曽我　幸代（名古屋市立大学人間文化研究科/人文社会学科　准教授）

「ESD は一人ひとりがケアされる社会をつくるための教育です。一人ひとりにはだれを想像しますか？今の教育を問い返しながら、これからについて考えます」

■第2回　「子ども・ユースの社会参画と地域づくり」&ワークショップ

話題提供：原　京子（ こどもフォーラム　代表）

「子ども・ユースが地域づくりに参画し地域を元気にした事例から。

なぜ出来たの？どんなことを大切にしてきたの？コミュニティづくりのヒントがいっぱい！」

■第3回　「ユースの声と現状」&ワークショップ

話題提供：山田恭平（NPO法人こどもＮＰＯ理事）

講師：こどもＮＰＯの中高生

「若者たちが声をあげて地元に自分たちの居場所をつくっている現場から」

子ども講師　登壇！

■第4回　サスティナビリティ・リレーシンポジウム SDGs「平和」×「貧困」

主催：愛知学長懇話会

登壇：こどもＮＰＯの中高生　サポート：こどもＮＰＯ大学生サポーター

「前半は高校生・大学生の活動報告会、後半からはワークショップを経て高校生・大学生からの持続可能な都市・名古屋への提案が行われます」

■第5回　交流会

ファシリテーター：根岸恵子（NPO法人こどもＮＰＯ 理事）

「これまでの講座参加者やシンポジウムで出会ったみんなの交流会」

＜成果・実績＞

397 名（講座 77 名、シンポジウム 320 名）

名古屋市立大学・愛知学長懇話会と連携し多くの大学生が学び、おとなとともに子どもの声に傾聴しました。

＜事業を終えて＞

公の場での活動報告や、子どもたち自身を取り巻く現状への声は、率直で切実で、参加者の心に深く響きました。　（アンケート結果より）

♡ ♤

名古屋市子どもの権利に関する子どもへの意見聴取業務（委託事業）

＜目的＞

名古屋市が第三者機関の設置検討にあたり、子どもに対して「子どもの権利」に関する認識や思いを聴くとともに、子どもが気軽に安心して相談できるような場について、同機関の制度設計の参考にするため、名古屋市より依頼を受け、子ども自身の意見を聴取しました。

＜調査の実施＞

（１）ヒアリング（インタビュー形式）による意見聴取

１ 児童館（中川・緑） ２ 居場所（さばんなかふぇ・サバンナきち・てんぱくプレーパーク）

３ 学習支援（緑区内４会場） ４ イベント会場（環境デーなごや中央行事 2018）

（２）子ども集会による意見聴取

１ オルタナティブスクールあいち惟の森 低学年

２ 緑児童館 中高生の「GT 学びタイム」

３ 緑児童館 グローカル・グリーン・タイム クラブ

（３）スタッフの声

＜事業を終えて＞

子どもの権利条約について、関心をもって条文に目を通した子どもたちの中から「子どもの権利」が守られなかった体験が語られ、広く子どもたち自身が「子どもの権利」を知り、理解する機会をつくる必要性が感じ取られました。

また「悩みはあってもおとなに話したくない」「ここでは自分らしく過ごせる。話せる人がいる」という子どもたちのエピソードから、生活圏内における安心できる居場所・しゃべり場と、子どもの声を公正な立場で聴くことができるおとなの存在を求めていることが明らかになりました。

子どもたちはおとなに話をしたくないのではなく、声を受け止めてもらいたいと願っています。

今回の調査からも、子どもが意見表明する機会の大切さを実感しました。子どもたちが諦めることなく自信を持って自分の思いや考えを話すことができる社会であるために、子どもアドボカシーの普及が望まれます。

こどもＮＰＯがつくる子どもの場とスタッフに対して、子どもたちが信頼を持っていることも確認できました。子ども集会の中から、子どもの意見をおとなに伝えたい、伝える機会をつくりたいという声もあがりました。

＜成果・実績＞

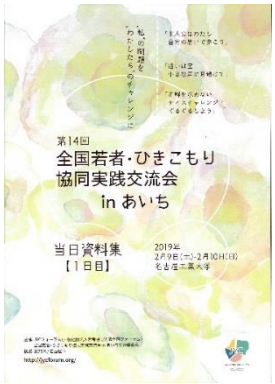
報告書としてまとめ、名古屋市に提出しました。

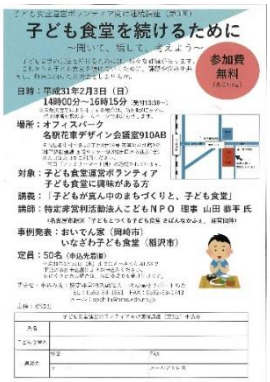
☆
講師派遣（自主事業）

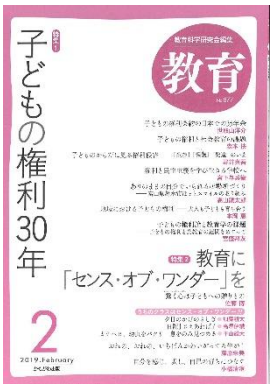
＜目的＞
各団体からの依頼に応じ、こどもＮＰＯが実践している事業の報告や、テーマに沿った講演を行いました。こどもＮＰＯの実践を広く周知し団体理念を発信していきます。

＜取り組み内容＞
「子どもの貧困」「子ども食堂」「学習支援」というキーワードをもとにした依頼が多くありました。社会的にも関心が高い分野となっています。こどもＮＰＯ取り組みの実践はさまざまでテーマに沿った形にアレンジして講演を行いますが、どの事業でも根っことなる部分は同じであり、こどもＮＰＯが大切にしている「子どもの権利」について 1,700 名という多くの受講者に伝えることができました。

＜成果・実績＞
依頼件数　17 件
受講者数　約 1,700 名







■講師派遣

4/27	子どもの福祉特別講義「学習支援の現場」	日本福祉大学	本岡恵
5/23	家庭科研究会総会教員研修会	愛知県私学協会家庭科研究会	山田恭平
6/13	子ども食堂レクチャー	金城学院大学	本岡恵
6/22	ソーシャルウーマン総論	金城学院大学	本岡恵
8/19	名高教夏期合宿学習会	名古屋市立高等学校教員組合	山田恭平
9/29、10/1、10/16、11/5、11/8、11/14、11/21、12/7、1/10、1/15、1/31 、2/4、2/5	愛知県放課後児童支援員研修	市民フォーラム 21	塚本岳
11/2	地域で子どもを育むためのボランティアスキルアップ講座	愛知県生涯学習推進センター	本岡恵
2/3	子ども食堂運営ボランティア向け連続講座「子ども食堂を続けるために」	愛知県地域福祉課子ども未来応援グループ	山田恭平
2/4	愛知県学習支援ボランティア講座	愛知県社会福祉協議会地域福祉部	山田恭平
3/19	子どもの貧困対策マッチングフォーラム	内閣府	山田恭平

■ファシリテーター、事例報告、インタビュー、各種委員等

9/12、2/15	なごやか地域福祉2020策定懇談会作業部会　委員	名古屋市子ども青少年局	小川智子
9/25	名古屋市家庭訪問型相談モデル事業外部委員会委員	草の根ささえあいプロジェクト	青野桐子
10/3	なごや子ども･子育て支援協議会子育て家庭計画部会におけるヒアリング　委員	名古屋市子ども青少年局	小川智子
12/3	若宮商業高校分会教研　ファシリテーター	若宮商業高校	山田恭平、本岡恵、若杉逸平、菅沼功
12/22	サスティナビリティ・リレーシンポジウム　審査員	名古屋市立大学	根岸恵子
1/20	地域のコモンズと評価に関する研究会成果報告会　プロジェクトオーナー		本岡恵
2/9	地域包括ケアイベント	南医療生協	山田恭平
2/9	全国若者・ひきこもり協同実践交流会inあいち分科会ゲスト	全国若者･ひきこもり協同実践交流会inあいち実行委員会	本岡恵
2/27	名古屋市内の少年支援体制の再構築についての研究インタビュー	名古屋市立大学	山田恭平
3/15	名古屋市学習支援事業全体研修会　事例報告	子ども縁の下サポーター	山田恭平

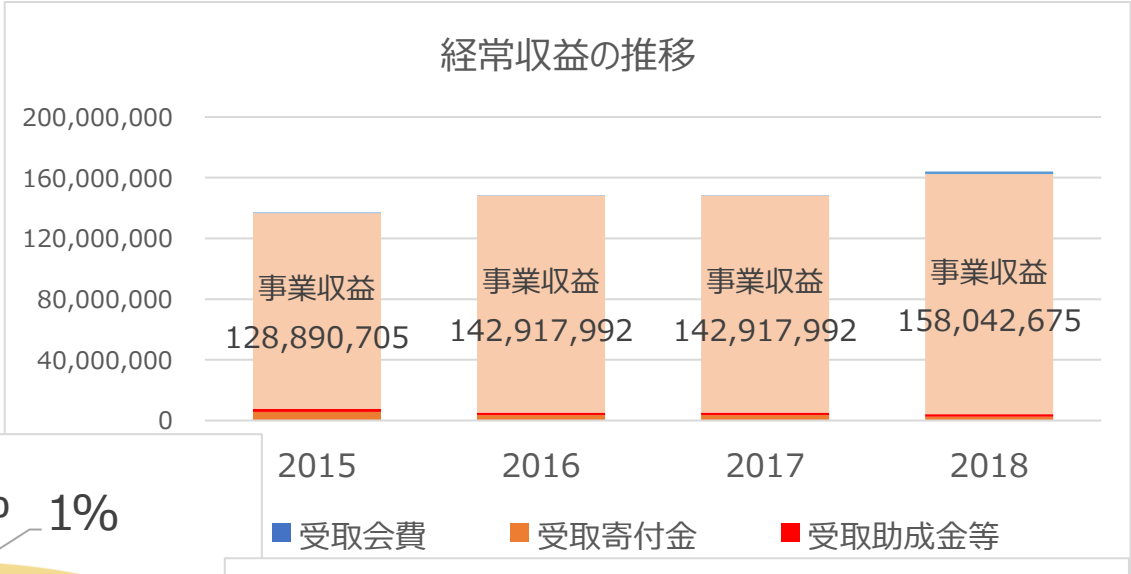
◉2018 年度収支決算

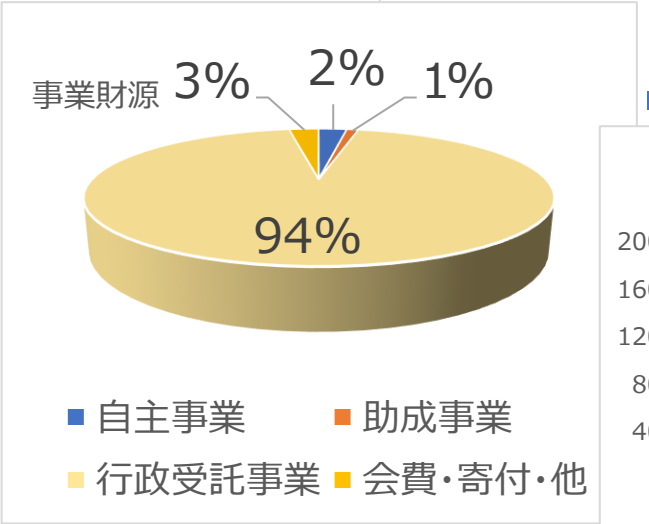
活動計算書　　＜自 2018 年 4 月 1 日　至 2019 年 3 月 31 日＞

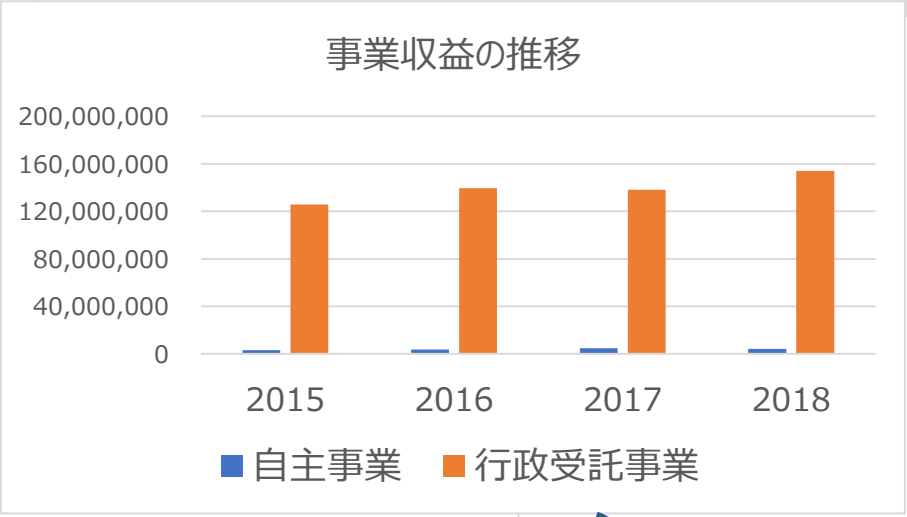
経常収益	受取会費	384,000
	受取寄付金	2,210,284
	受け取り助成金等	1,693,450
	事業収益	158,042,675
	その他収益	1,721,443
	経常収益計	164,051,852
経常費用	事業費　人件費	109,100,047
	その他経費	46,779,040
	事業費計	155,879,087
	管理費　人件費	3,483,695
	その他経費	1,906,425
	管理費計	5,390,120
	経常費用計	161,269,207
経常外収益		0
経常外費用　支払寄付金・過年度損益修正損		5,000,000
税引前当期正味財産増減額		△2,217,355
法人税、住民税及び事業税		68,566
当期正味財産増減額		△2,285,921
前期繰越正味財産額		24,942,883
時期繰越正味財産額		22,656,962

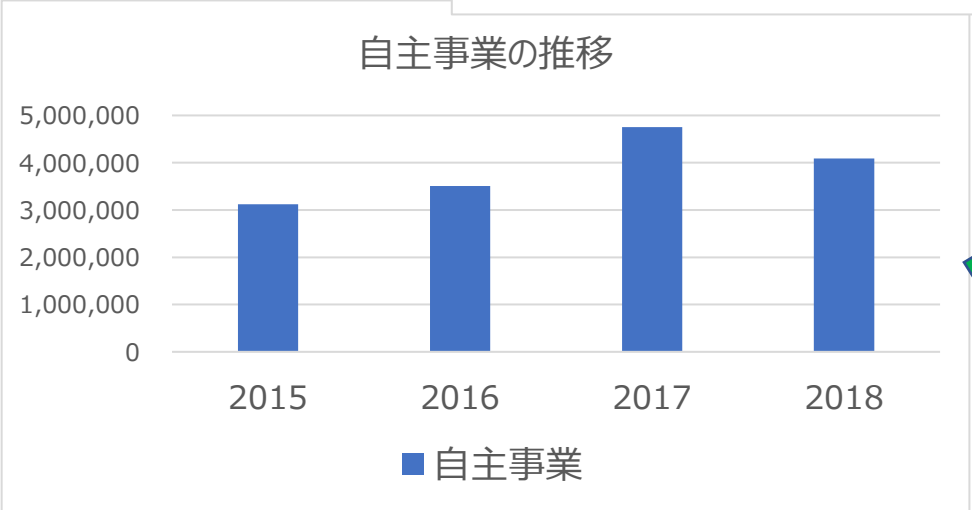
貸借対照表　　＜2019 年 3 月 31 日現在＞

流動資産　現金	326,058	流動負債　未払金	16,328,598
預金	38,847,974	前受金	10,000
（売上債権）	3,589,140	預かり金	723,525
（棚卸資産）	23,870	仮受金	1,571,774
（その他流動資産）	301,068	未払消費税等	2,338,300
		負債の部　合計	20,972,197
固定資産（有形固定資産）	472,049	正味財産　前期繰越正味財産額	24,942,883
（投資その他の資産）	69,000	当期繰越正味財産額	△2,285,921
		正味財産の部合計	22,656,962
資産の部　合計	43,629,159	負債・正味財産合計	43,629,159

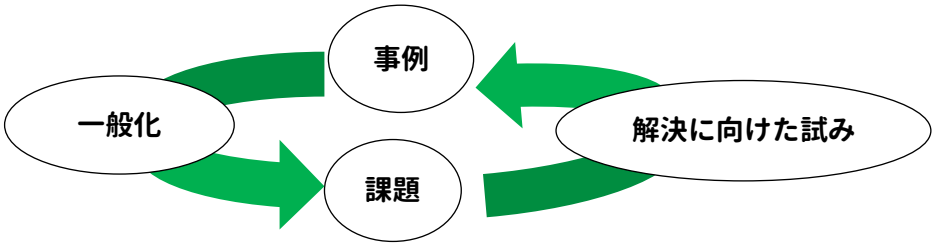








私たちは各事業を通して、子どもを取り巻く社会的課題に直面しながら、絶えずその課題に潜む潜在的な背景を考え、解決に向けてアプローチを試みています。
そのようなアプローチは本体事業と複合的に展開し、そのなかで先進的な事例が生まれ、提案・提言へとつなげていき、社会に浸透させていく役割を担ってきました。現在、こども NPO の収入の多くは、公的施設の受託料や指定管理料で占められており、そのような課題解決の糸口となる先進的な試みを生み出す本体事業にかかる資金が枯渇している現状にあります。



参加のカタチ

★会員として参加★

会員のみなさまには【こどもＮＰＯだより】をお届けします（年４回）

正 会 員　会費　5,000 円／年

総会での議決権を持ち、団体運営について直接的にご参加いただけます。

賛助会員　会費　3,000 円／年

活動理念に賛同し、団体の活動を応援・ご支援いただく会員です。

★お買い物で参加★

イエローレシートキャンペーン

イオンモール大高（名古屋市緑区）のイエローレシートキャンペーンに登録しています。
毎月 11 日に発行される黄色いレシートを、こどもＮＰＯの BOX に投函してください。
年間のレシート合計金額の 1%にあたる品物がイオンより寄贈されます。

★寄付をして参加★

いただいたご寄付は、事業運営、団体運営のために活用させていただきます。

【振込先】　ゆうちょ銀行　00860-2-188302　特定非営利活動法人こどもＮＰＯ
　　ゆうちょ銀行　〇八九支店　当座　0188302　特定非営利活動法人こどもＮＰＯ

【東海ろうきん寄付システム】
100 円単位で任意の寄付額を設定し、団体を指定して寄付をするシステムです。
口座から自動で引き落とされるので、継続的に団体を応援することができます。

★一緒に活動して参加★

・イベントに参加する
・ボランティアスタッフとして関わる
・庭や畑の手入れを手伝う
・会報の印刷＆発送作業を手伝う
・子どもにギターを教える　　など

興味のあること＆得意なことで
協力してください。

★情報シェアで参加★

・Facebook でいいね！やシェアをする
・ブログや SNS でこどもＮＰＯの活動を紹介する
・お友達にこどもＮＰＯの企画を話してみる　など

ぜひ情報発信をお願いします。

応援してください☆

特定非営利活動法人こどもＮＰＯ

〒４５８－０８１８　名古屋市緑区鳴海町字大清水６９－１１１６
☎０５２－８４８－７３９０（電話受付時間　平日９：００～１７：３０）
Email　office@kodomo-npo.or.jp
HP　https://www.kodomo-npo.or.jp
Facebook　https://www.facebook.com/kodomonpo.nagoya